

## トピック まなづるの海

### 夏の夜の風物詩、青くキラキラ光る海

6月頃から、真鶴の海岸で夜に海が青く光る様子が目撃されています。波打ち際が青く光る様子は美しく幻想的です。海面をのぞきこめば、海の中で小さい光がキラキラ光るのを見ることができます。



夜の真鶴港で青く発光するヤコウチュウ。

光の正体は「ヤコウチュウ」というプランクトンで、渦鞭毛虫（渦鞭毛藻とも言います）のなかまです。形は風船のように丸く、直径は最大2mmとプランクトンの中では大型の種類です。外からの刺激に反応して青く発光する性質を持ち、春から夏の終わりにかけて大発生したときには、波間にキラキラ光って楽しませてくれる、夏の夜の風物詩です。



赤潮が発生した琴ヶ浜（左）、ヤコウチュウ（上）

ヤコウチュウは薄いピンク色をしていて、大量に集まると文字通り「赤潮」が発生します。赤潮と聞くとあまりよいイメージではないかもしれませんが、実は赤潮を作るプランクトンは数種類いて、中には有毒なものもありますが、ヤコウチュウは毒がないのでそれほど心配はいりません。むしろ赤潮が見られたら、その夜はヤコウチュウイルミネーションが見られるチャンスと言えるでしょう。ヤコウチュウは珍しい生物ではなく、日本沿岸でよく見られる種ですが、今年は特に多いようなので、この夏の間にも青く光る幻想的な海を見られる機会がありそうです。

## 真鶴の海況

### 水温は平年並み、植物プランクトン大発生

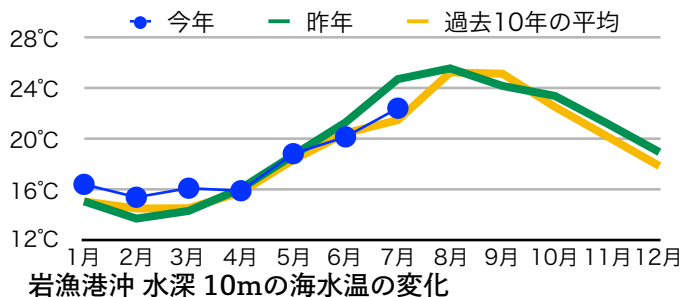
真鶴沖の水温は昨年より低いものの、平年並みとなっています。横浜国大の定期調査では、水温のほかにも様々な調査をしていますが、7月は植物プランクトンの大量発生が確認されました。植

物プランクトンは毎年春と秋に大量発生しているのですが、今年は春には見られずこの時期に発生しており、例年とは違った季節変化をしているようです。

<データ提供：横浜国立大学>



植物プランクトン珪藻のなかま



## 真鶴の漁獲情報

### 例年より少ない水揚げ、相模湾全体で

例年、夏は水揚げ量が少なくなる時期ですが、今年は特に少ないそうです。この状況は真鶴に限ったことではなく、相模湾全体でも同じように水揚げが少なくなっています。そんな中、アジの子ども（ジンダ）や脂が乗り始めたカマスが旬を迎えています。今回は、春から夏にかけて水揚げされるワカシをご紹介します。成長して体が大きくなるにつれて呼び名が変わる魚を「出世魚」と言いますが、ブリもその一つで、モジャコ→ツバス→ワカシ→イナダ→ワラサ→ブリと名前が変わります。ただし、これは真鶴近辺での呼び方で、地方によってさまざまな呼び名があります。呼び名が変わる理由は、成長により脂の乗りや味などに違いがあり、適した調理方法が異なるためです。ワカシなら刺身よりも煮付けがおすすめとのことだったので、半身を煮付け、残りは試しに刺身にし、どちらも美味しくいただきました。<情報提供：真鶴町漁協>



ワカシ。体長30cmほど。

## 2019年8月の町立遠藤貝類博物館のイベント

- 3日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」  
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料】  
申し込み：町立遠藤貝類博物館HP、ディスカバーブルー HP
- 14日(水) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」  
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料】  
申し込み：町立遠藤貝類博物館HP、ディスカバーブルー HP
- 17日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」  
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【有料】  
申し込み：町立遠藤貝類博物館HP、ディスカバーブルー HP

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HPからダウンロード  
ができます。プリントしていただいての掲示・配布歓迎です。